

召会の唯一の立場の上に立って、  
キリストのからだの制限を受け、  
一つ思いの中でからだの感覚を持つ

聖書： I コリント 1:2. 啓 1:11. ローマ 12:3. II コリント 10:13.  
エペソ 4:16. I コリント 12:12-27

**I. わたしたちは召会の唯一の立場、すなわち、一の真の立場に立たなければなりません：**

- A. I コリント第1章2節は、コリントにおける召会について語っています。これが示していることは、コリントという地方が、召会の存在、表現、実行のためであるということです。このような地方が、諸地方召会の地方の立場となり、その上に諸地方召会がそれぞれ建造されます。こういうわけで、コリントに在る召会は、コリントという都市の立場の上に建造されました。
- B. 初期の召会生活の実行は、一つの都市に一つの召会、一つの都市にただ一つの召会があるという実行でした。いかなる都市にも二つ以上の召会はありませんでした——使徒 8:1. 13:1. 啓 1:11：
1. これが地方召会であって、都市を単位としており、通りや地域を単位としていません。
  2. 地方召会の行政区域は、その召会のある都市全体に及ぶべきです。それは、その都市の境界よりも大きくあるべきでなく、また小さくあるべきでもありません。
  3. その境界の中のすべての信者が、その都市の中の唯一の地方召会を構成すべきです。
  4. 一の真の立場、すなわち、神の選ばれた場所にある集会には、四つの特徴があります——参照、申 12:5：
    - a. 第一に、神の民は常に一であるべきです。彼らの間に分裂があってはなりません——詩第 133 篇. ヨハネ 17:11, 21-23. I コリント 1:10. エペソ 4:3-4 前半。
    - b. 第二に、神の民がその中へと集まるべき唯一の御名は、主イエス・キリストの御名であり、その実際はその霊です。他のどの名を用いることも宗派になり、分裂します。これは霊的な淫行です——マタイ 18:20. I コリント 1:12. 12:3 後半。
    - c. 第三に、新約で神の住居、彼の住まいは、特にわたしたちの霊の中に設けられています。それは、わたしたちのミングリングされた霊、再生され、神聖な霊によって内住されているわたしたちの人の霊です。わたしたちは神を礼拝する集会において、わたしたちの霊を訓練し、あらゆることをわたしたちの霊の中で行なわなければなりません——ヨハネ 3:6 後半. ローマ 8:16. II テモテ 4:22. エペソ 2:22. ヨハネ 4:24. I コリント 14:15。
    - d. 第四に、わたしたちは神を礼拝するとき、祭壇で表徴されるキリストの十字架を真に適用し（申 12:5-6, 27）、肉、自己、天然の命を拒絶し、キリスト、ただキリストをもって神を礼拝しなければなりません（マタイ 16:24. ガラテヤ 2:20）。

- II. わたしたちは一の真の立場に立つキリストのからだの肢体として、他の肢体の制限を受けなければならず、わたしたちの度量を越えてはなりません：
- A. 神はからだのすべての肢体を、彼の意図するままに置かれました—— I コリント 12:18：
1. かしらはわたしたちをからだの中の特別な地位に置き、わたしたちに特別な機能を与えます——ローマ 12:4. I コリント 12:15-17。
  2. わたしたちそれぞれの肢体は、キリストのからだの中で自分自身の位置を持っています。それは神によって割り当てられたものであり、わたしたちが受け入れるべきものです。
  3. そのような割り当ては神のみこころにしたがったものですから、あらゆる肢体が必要です—— 19-22 節。
  4. あらゆる肢体には一定の位置があり、一定の割り当てがあり、特別な分があり、それをもってキリストのからだに仕えます。
  5. 各肢体は自分自身の特徴を持っており、また自分自身の能力を持っています。これらの特徴が、それぞれの肢体の位置、地位、務めを構成します——ローマ 12:4-8. II テモテ 4:5。
- B. からだの成長と発展のための基本的な要求は、わたしたちが自分の度量を認識することと、この度量を越えないことです——エペソ 4:7, 16：
1. わたしたちは、進んで自分の度量によって制限されなければなりません——ローマ 12:3, 6。
  2. わたしたちは自分の度量を越えると直ちに、かしらの權威を越え、油塗りの下から出てしまいます——参照、詩第 133 篇。
  3. わたしたちは自分の度量を越えるとき、からだの秩序に干渉します。
  4. 冷静な思いを持たず、自分自身について思うべきことを超えて思い上がることは、からだの生活の正しい秩序を無にします——ローマ 12:3。
- C. わたしたちはパウロのように、神の尺度と度量という制限の中にとどまって、神がどれだけわたしたちに計ってくださったかにしたがって、行動し、事を行なうべきです—— II コリント 10:13：
1. わたしたちは自分の働き、経験、あるいは主に対する享受について証しをするとき、度量の範囲内で、すなわち、ある一定の制限の範囲内で、証しをしなければなりません。
  2. わたしたちは働きが広がることを期待しますが、どのようにして神の制限の下にとどまるかを学ばなければなりません。わたしたちは、限度のない広がりを目指すべきではありません—— 13-15 節：
    - a. もしわたしたちがその靈にしたがって働きを広めるなら、常に一定の制限があるでしょう——参照、2:12-14。
    - b. 内側でわたしたちは、主がただ一定の程度まで働きを広めることを意図しているという感覚があります。内側でわたしたちは、ある点を越えて働きを広めることに平安がありません。
    - c. 外側では、環境において、主はある事柄を起こして、働きが広まるのを制限す

るかもしれません。環境は、わたしたちがある特定の境界線を越えるのを許しません——参照、ローマ 15:24。

3. 召会の奉仕においてわたしたちは認識する必要がありますが、神がわたしたちに計られた事には限りがあり、わたしたちは過度に背伸びすべきではありません——12:3-4, 6 前半。

**III. 主の回復における主の行動のために、地方的にも宇宙的にも、わたしたちは一つ思いの中でからだの感覚を持たなければなりません——使徒 1:14. 2:46. 4:24. 15:25.**

**ローマ 15:6 :**

- A. わたしたちは常にからだを考慮し、からだを顧慮し、からだを尊び、からだにとって最も益になる事を行なうべきです——I コリント 12:12-27。
- B. 「ニー兄弟がからだについて教えたとき、彼が言ったのは、わたしたちは何を行なおうとも、諸召会がそれについてどのように感じるかを考慮しなければならないということでした」（「召会生活の中で騒動をひき起こす問題」、第3章、英文）。
- C. からだの中には、独立や個人主義はあり得ません。なぜなら、わたしたちは肢体であり、肢体はからだから離れて生活することはできないからです——I コリント 12:27. ローマ 12:5. エペソ 5:30 :
1. 自分がからだの肢体であることを見ている人たちは、からだを尊び、他の肢体を敬います。一人一人の肢体は、欠くことのできないものです——I コリント 12:15, 21, 23-24. ローマ 12:3. ペリピ 2:29. I コリント 16:18. 士 9:9 :
- a. わたしたちはキリストのからだの肢体ですから、からだに対する感覚を持ち、かしらの感覚を自分自身の感覚とすべきです——ペリピ 1:8. I コリント 12:25 後半-26。
- b. からだの生活の中で、わたしたちは同じ魂となり、キリスト・イエスのこと、すなわち、すべての聖徒を伴う召会に関することに対して、真に関心を持つ（本気で心配する）必要があります——ペリピ 2:2, 20-21. 1:8。
2. からだの啓示のある所には、からだの感覚があります。からだの感覚のある所では、個人主義的な考え方や行動は除き去られます :
- a. わたしたちがからだを知りたいなら、わたしたちの罪深い命や天然の命から救い出される必要があるだけでなく、わたしたちの個人的な命からも救い出される必要があります。
- b. 御父がこの世に相對し（I ヨハネ 2:15）、その霊が肉に相對し（ガラテヤ 5:17）、主が悪魔に相對するのと同じように（I ヨハネ 3:8）、からだは個人に相對します。
- c. わたしたちはかしらから独立することができないのと同じように、からだから独立することもできません。
- d. 個人主義は、神の目に憎むべきものです :
- (1) からだの敵は、自己、独立した「わたし」です。わたしたちがからだの中で建造されようとするなら、自己は罪定めされ、否まれ、拒絶され、放棄されなければなりません——マタイ 16:21-26。
- (2) わたしたちは神に依り頼むだけでなく、からだにも依り頼み、兄弟姉妹にも

依り頼むべきです——出 17:11-13. 使徒 9:25. II コリント 11:33。

- e. わたしが知らないことを、からだの別の肢体は知っているでしょう。わたしが  
見ることができないことを、からだの別の肢体は見ることができます。わたし  
が行なうことができないことを、からだの別の肢体は行なうことができます  
—— I コリント 12:17-22。
- f. もしわたしたちが肢体仲間の助けを拒むなら、わたしたちはキリストの助けを  
拒んでいるのです。遅かれ早かれ、単独のクリスチャンはみな枯渇するでし  
ょう—— 12 節。

© 2017 *Living Stream Ministry*